

美濃加茂健康ファミリー



第三十五話

今年度もよろしく
お願いいたします

私たち、美濃加茂健康ファミリーです。美男(72歳無職)、濃代(68歳無職)、加寿夫(68歳無職)、茂子(40歳会社員)、健司(38歳パト)、健司お兄ちゃん(長男中学3年生)そして、私(康子)(長女4年生)の6人家族です。今年も1年間よろしくお願いたします。

美男「わしらも21世紀を元気に迎えることができたなあ」
濃代「そつやねえ。どうせ長生きするんなら2人そ

ろつてずっと元気でおりた
いねえ」
美男「そりゃそつや。やつぱり寝たきりになつたり、ぼけてはいかんぞなあ」
濃代「健司のお嫁さんも見たいし康子の孫も抱きたいし。21世紀もやらんならんことがいつばいあるわ。まだまだ健康でおれるかねえ」
美男「最近、『健康日本21』というのをよく聞くようになったな」
濃代「今日の新聞にも書いてるに。おじいさん」
美男「なにになに。21世紀における国民健康づくり運動。すべての国民が健康で明るく元気に生活できる社会の実現のために早世(早死)を減少させ痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる期間(健康寿命)を延ばす、生活の質を向上させるなどを目標に個人と社会の力を合わせて推進する運動。かあ」
濃代「ほんならわたしらにびつたりやないの。わたしらも目標を持って参加しないかんねえ」
美男「9つの目標があるんやと」
濃代「1、栄養・食生活

- 2、身体活動・運動
 - 3、休養・心の健康づくり
 - 4、たばこ
 - 5、アルコール
 - 6、歯の健康
 - 7、糖尿病
 - 8、循環器病
 - 9、がん
- この9項目について目標を決めて進めていくんかねえ」
美男「そつやなあ。わたしは今やつと朝の散歩をこれからもせひ続けたいしなあ。たばこはやめたでええが、加寿夫がへびースモーカーやであれをどうにかしないかんしな」
濃代「わたしはちよつと太り気味やおじいさんと一緒に歩いたり、食事の方も勉強してカロリーについて知りたいし、検診で骨がもろいといわれたで骨を丈夫にする食事や運動についても知りたいわ」
美男「よし。今夜若いもんが帰ってきたら、わが家の21世紀の目標について話し合いたいかなあ」
濃代「おじいさん、ちよつとおおげさすぎるんやない。でもそのぐらいの気持ちで頑張りたいね」

だん

応答的対応

乳幼児期の心身の成長・発達
はめざましく、昨日までできなかったことが、今日はひとりで行えるようになることが多々あります。
特に、2歳までに脳の重量は大人の80%まで、神経は3歳までに大人の60%まで発達するといわれています。だからこそ、この時期に大人の対応の仕方が大切だといわれているのです。
ある保育園の0・1歳児担当の保育士が、表情の少ない子どもに声をかけたり、話しかけたりしてあげてくださいね」とお願したところ、「こんな小さな子どもに何を話せばいいのですか。どうせ、分かるはずもないのに」と聞き返されてしまったということでした。
0・1歳児に、言語明瞭で論理的な話を期待しているわけではなく、子どもの心の動きを適切な言葉にかえて話しかけてあげることが大切だということですが、接し方がわからないという親が出始めているという事実もあります。

保育士もこのような事実を親へのお願という形ではなく、より具体的な話で親に接していく支援的な形で働きかけをしていくことを改めて認識したそうです。
例えば、ミルクを飲ませるときに、ごくごく音をたてながら飲む様子を見て、「おいしいね。おながすいてたから泣いてたんだね。あわてないで、ゆっくり飲もうね」また、泣いている子を抱き上げて、「あらあら、さみしかったのね。洗濯物を干して待たせちゃったね。ほら、外はいい天気だよ。お散歩に出かけようね」
これらを応答的対応といえます。大人自身が、子どもの感情を的確に感じとれるだけの心のゆとりを持ち、子どもの表情や行動を見て、共に喜んだり、感動したりしていくと、親自身も子どもとともに豊かな感性を育てていくことができます。
親自身が完成された人間であるという意識が強いと、自分の思いを子どもに押しつけてしまいがちです。これが続くと親にとって都合のいい子が育っていきます。
適切な対応がしてもらえなかった「イージーチャイルド」から問題行動が生まれやすいという事実もあります。子ども自身の思いへの適切な応答的対応を心がけていきましょう。

ひとこと言わせて!

*このページは、市民からの意見などを掲載しているページです。ここに掲載された意見に関しての感想などもお待ちしております。

まずは、電子メールで届いたこの意見から。一部抜粋で掲載します。

ただいま住んでおります場所に引越してきて、状況は日増しに悪くなるばかりで我慢も限界に近づきつつあるところでもあり、是非とも耳を傾けていただきたいと心より願って止みません。

さて、どのようなことかと申しますと私も住んでおります加茂野町稲辺(ナヒタウン)の生活環境についてであります。具体的に申し上げると、家のすぐ前を東西に伸びている道路の交通事情の悪さです。

この道路が住宅の真ん中を通っているにもかかわらず、すつかり抜け道として利用され、朝も6時を過ぎますと、我が物顔のドライバーが一体、サーキットと勘違いしているのではなからうかというほどの、猛スピードで走り去っていきま

センターラインでしっかり往来を区分してあるのに、歩道すらないこの道を、散歩に利用していると、そうしたドライバー達が、あからさまに迷惑そうに私をかすめて行きます。こうしたドライバー達が

この道で、3度事故を起こしています。そのたびに私もは生きた心地がしないのであります。

また、もつと悪いことこの道はそうした一般車両のみならず、ダンプカーなどの大型車両までもが頻繁に利用する最悪の状態になっております。

これら大型車両が通るたびに私も風圧による窓ガラスの振動と家自体の揺れを毎日感じております。またこうした大型車両はあたりかまわず、排気黒煙をもうもつと、はき出して行くのであります。

最近、環境に対する配慮がこちらで叫ばれておりますが、このナビタウンという生活エリアにおいては、そのような社会情勢からはすつかり残り残されていくような気がしてなりません。どうぞ一市民のつらい胸の内を少しでも理解していただき、交通行政の適切な実行をお願い申し上げます。

(加茂野町・Yさん)

次はFAXにて寄せられた意見を。この意見も抜粋して掲載します。

私は、他市から美濃加茂市に嫁いでから、今だこ

に来てよかった。いい町だと思つたことがありません。それは子どもが生まれてからますます思えるようになりました。国道21号、41号と大規模な道路があるわりに発展していかないし、人口も思つたより少ない。

現在、加茂野町に住んでいます。子どもが学校についてとても不安があります。加茂野町は私にここに来てから、とてつもなく人口が増えています。

それは市の発展などにながり、とてもいいことだと思つていますが、そのかわりに、市から変化をいっていないことに怒りすら覚えます。

未だに残る、地元の人優先、「押しつけの強制宗教、政治」。どうしてそういうことに市はふれてくれないんですか?

これではこれ以上、人口増加は望めないと思います。私たちがそんな悪印象ばかりを自分の出身地の人たちに話しているからです。

道路工事も中途半端で終えたり、用水路は平気にフエンスなしで放置されたまま。誰かが落ちてけがをしなれば、動かない行政。人口重心が西方面に傾いているのに、中学校は名ばかりの「西中学校」。中心は

もつと西のはずです。この中学校が遠すぎるのが一番の加茂野町泣かせでもあります。あの狭く、古いところに増床、増築しても結果は見えています。

今こそ、市民の関心を行政に向けるチャンスだと思います。ここに嫁いで後悔ばかりしている私に住めば都ぐらいに思えるようにしてください。

(加茂野町・Kさん)

水道料の領収書について
水道料の振替領収書兼水道票の件ですが、どう考えても領収書が1カ月ずれていると思います。

ガス料金にしても、電気料金にしても、大変わかりやすくなっているのに対し、水道料に関しては、わかりにくく、家計の管理がしにくいのです。なんとかならぬものでしょうか。

(本郷町・Wさん)

他の市町村でも前々月の領収書となつていますが、皆様からこうした意見をいただいております。

今後、金融機関などと協議して、前月分の領収書となるようにしたいと考えております。

(水道課)

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。(広報誌上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください) あなたの声をお待ちしています。
〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係
でんわ 0574-25-2111(内線239・241)
FAX 0574-28-1290
電子メール kouhou@city.minokamo.gifu.jp